

## いじめ・いのちについて考える日について

今日は大阪市教育委員会が定めた「いじめ・いのちについて考える日」です。この日を設定した目的は

1 「いじめ」はいつでも、どの子供にもどの学校においても起こりえる。そのうえで「いじめ」は「いのち」をもおびやかす、人間として絶対に許されない行為であることを学校全体で再認識するため。

2 「いじめ」をゆるさない学級・学校づくりは仲間づくりの基本であることから、相手の立場に立って考える機会とするため。

3 互いに支え合って生きることの大切さ、夢や希望をもって生きることや自分を大切にする心など、「いのち」のかけがえのなさを考える機会とする。

ためです。

そもそもいじめとはどういったことを指すのでしょうか？文部科学省は、いじめとは同じ学校やクラスの児童生徒に心理的・物理的苦痛をあたえる行為のこと、と規定しています。具体的にはどんな行為を指すでしょうか？少し考えてみてください。

これも文部科学省のデータですが、苦痛の与える行為の1位は「からかい、悪口、嫌なことを言う」でした。おそらくほとんどの人が予想したことと同じだと思います。

「からかい、悪口、嫌なことを言う」に関して、去年お見せしたペーパーサートを簡単にもう一度お見せします。内容を思い出しながら見てくださいね。

ここに、よく友達の悪口や嫌なことを言うAさんがいます。Aさんの口から出ているピンクの○一つ一つがその悪口や嫌なことです。

昔、こんな実験をした人がいます。

最初に、Aさんが言った悪口や嫌なことをビニル袋いっぱいに集めます。

次にその空気を空気圧縮機でどんどん圧縮していきます。

そうすると、その空気はこんなピンクのきれいな小さな粒になります。

これを、ハムスターに与えます。するとハムスターはどうなったでしょうか？

なんと、ハムスターは死んでしまったそうです。どうしてでしょうか？

そうです、その小さなピンクの粒にはハムスターを殺す程の毒がいっぱい詰まっていたのです。人の悪口や嫌なことを言ったその空気には毒がいっぱい詰まっていたのです。

もともと悪口とは、人を傷つけるために使うので、どの言葉も傷つきます。でも校長先生が一番「いやだな～」と感じるのは「死ね！」「この世から消えろ！」のような「いのちの存在」そのものを否定するような言葉です。では、ここで「いのち」に関するペーパーサートを見てください。

ここに宇宙船いのち号があります。生まれるということは宇宙船いのち号が旅立ったということです。しかし宇宙船いのち号は死に向かってしか飛べないのです。死という星にいつたどり着くのかは誰にも分かりません。事故や災害が原因で明日かもしれませんし、100年後かもしれません。その時は誰にも分かりません。しかし、分かっていることはどんなに望んでも出発した星に帰ることはできないし、死という星にいつか着いてしまうということです。

そう考えると、必ず「死ぬ」いのちはとても貴重で大切だと思いませんか？

あなたの「いのち」も友達の「いのち」もたった一つしかない大切なものであるということを改めて感じてもらえたでしょうか？そうであればとても嬉しいです。

これで校長先生のお話を終わります。